

組立説明書



製品概要

TKK5200系は、1958年に製造された18m級のスキステンレスカーです。当車は日本初のステンレスカーとして誕生し、現代ステンレスカーの礎となりました。台車や電装品をはじめとした基本的な機能・性能は初代5000系と共通ですが、5000系が全長18.5mであったのに対し、5200系では全長18.0mに改められ、のちに18m車標準寸法として定められています。また、構体断面も5000系とは異なるくの字形の曲げ加工が入り、特徴的な武骨いコルゲートと相まって「湯たんぼ」の名称で親しまれました。

登場時はMc-T-Mcの3両編成でしたが、製造初年の翌年に中間M車が増備され、Mc-M-T-Mcの4連や初代5000系を組み込んで5～6連でも活躍しました。

nano factory では、細かいサッシに大きな客窓が映える5200系登場時3連をリリースしておりますが、新たに中間M車デハ5210を設計し、3Dプリントにて皆様にご提供いたします。

製品仕様

製品名：TKK 5200系デハ5210登場時タイプ
Nゲージボディ未塗装組立キット

数量：TKK 5200系 デハ5210 1両分
(デハ5210×1)

車体	屋根	床板	台車
床下機器	ダミー連結器	屋根上機器	動力化対応



内訳：ボディ・屋根板・床板：

- a. 妻板(配管有)：3
- b. 妻板(銘板有)：1
- c. 側板M車右側：1
- d. 側板M車左側：1
- e. M車屋根板：1
- f. M車床板：1

別途必要品：完成には下記の社外品が必要です
床下機器：1両分(各自工夫のこと)

GM TS-301台車：1両2個

GM PT42Nパンタグラフ 又は TOMIX PG16形パンタグラフ：1個

窓ガラス用透明板：側面・妻板分

車体表記インレタ・ステッカー：1両分

※：動力化不可・動力化する場合は基本セットデハ5200に組み込んでください。

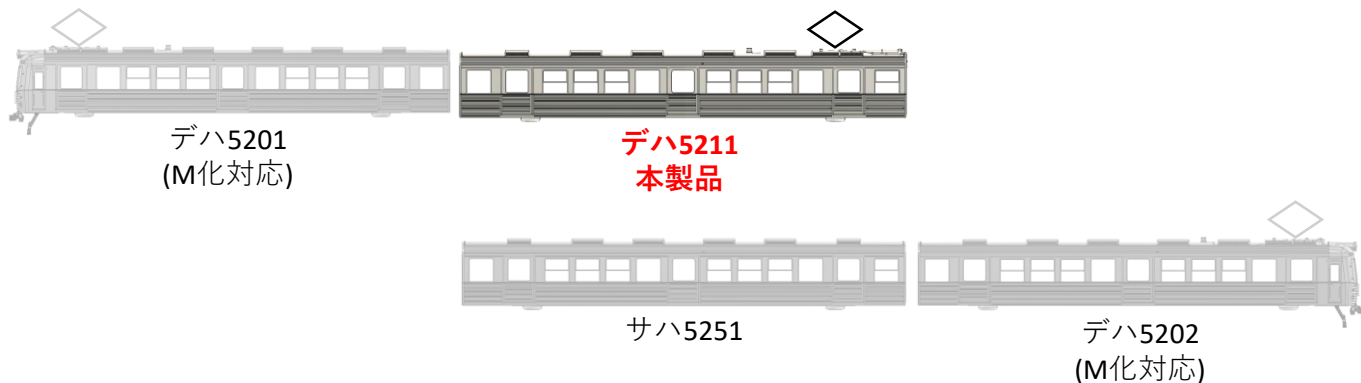
製品外観

製品名：TKK 5200系デハ5210登場時タイプ
Nゲージボディ未塗装組立キット

数量：TKK 5200系 デハ5210 1両分
(デハ5210×1)

←渋谷・大井町

長津田・桜木町→



製品外観 形式写真

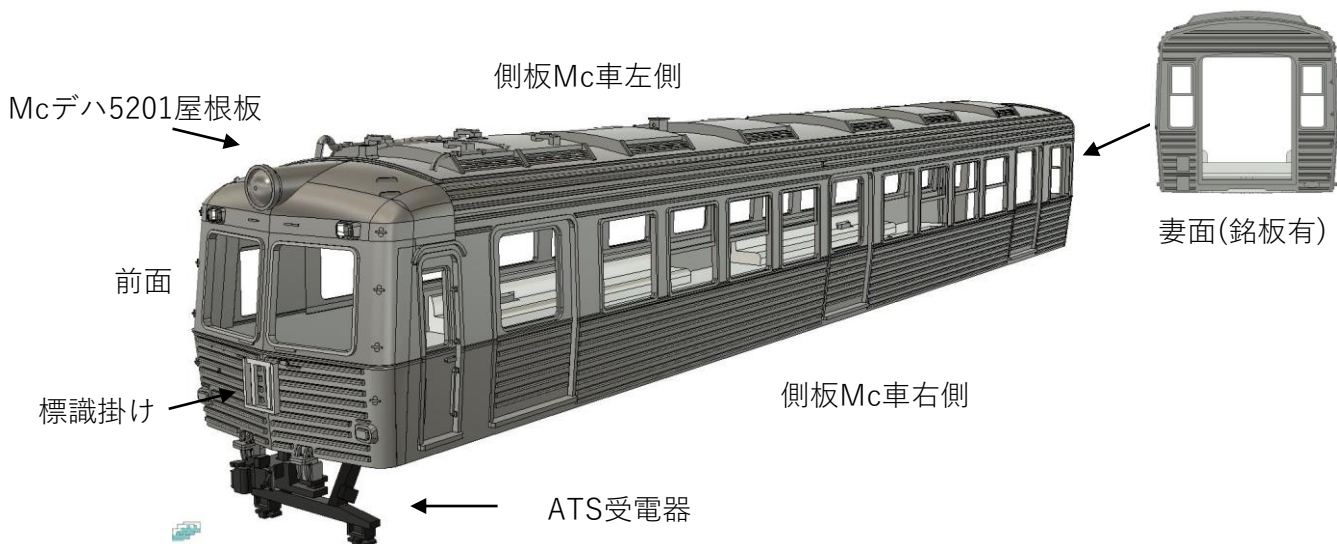
※写真は組立例です



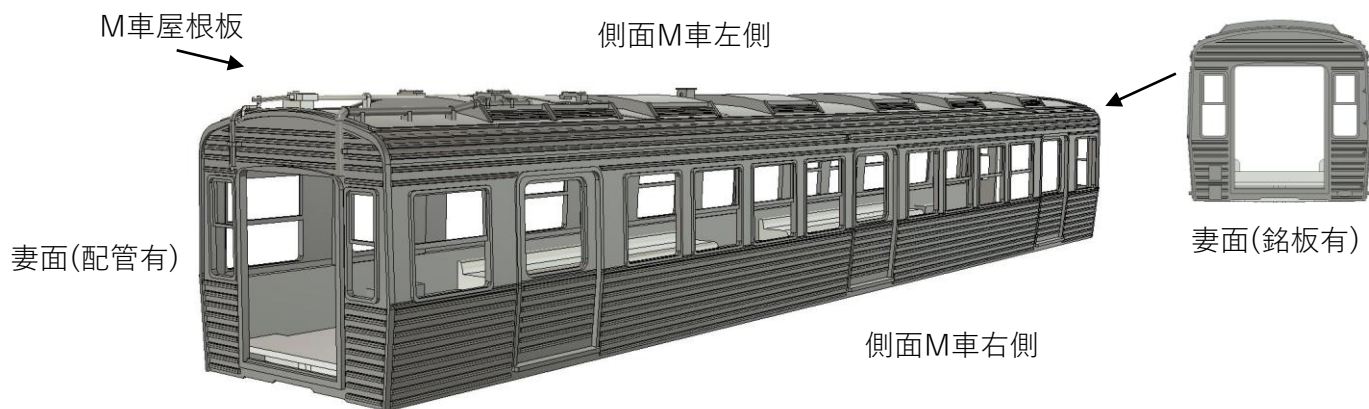
組立図

← 渋谷・大井町
Mc デハ5201

長津田・桜木町→



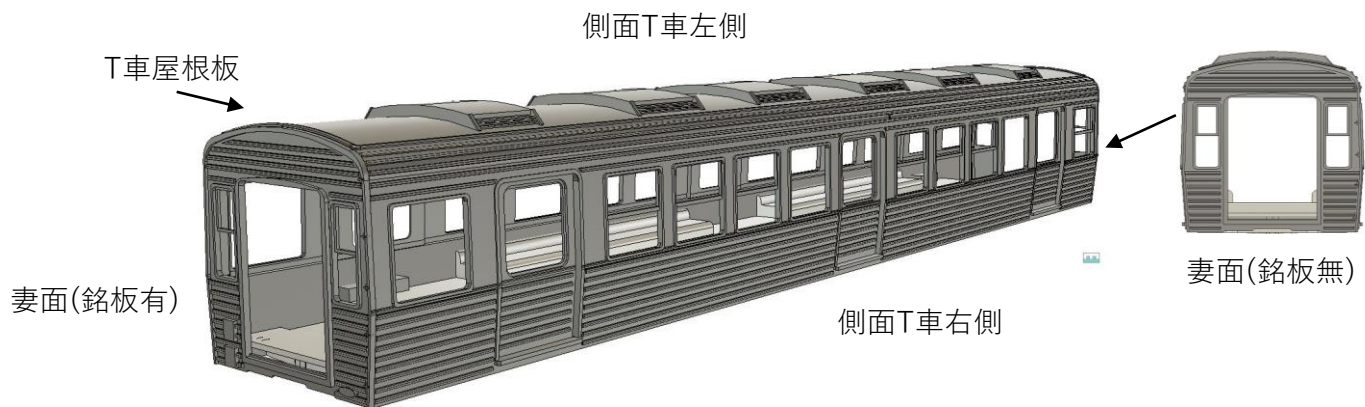
M デハ5210



組立図

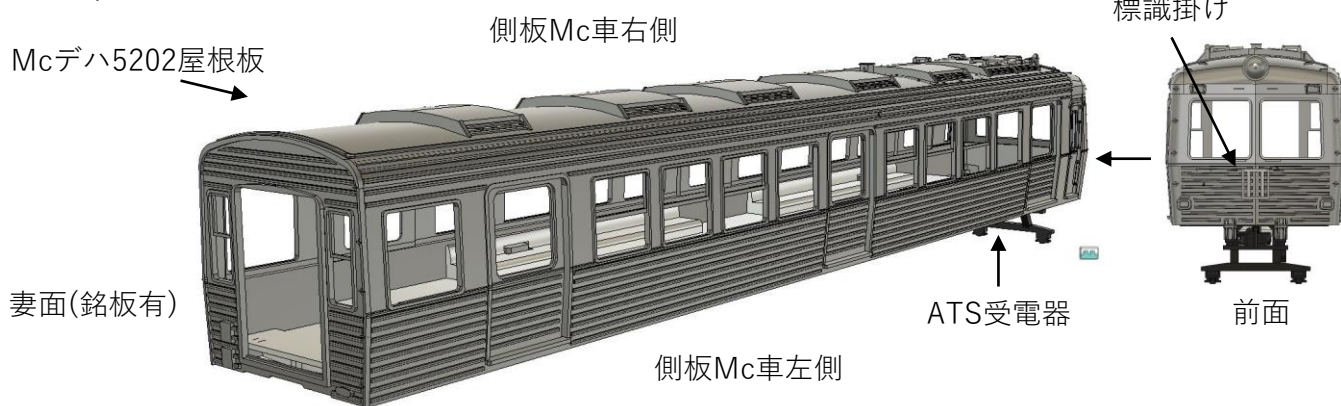
←渋谷・大井町
Tサハ5210

長津田・桜木町→



Mc デハ5202

Mcデハ5202屋根板



Mcデハ5201屋根板



Mcデハ5202屋根板

Mc車屋根板は、
デハ5201とデハ5202で配管が左右対称です。
注意して取り付けてください。

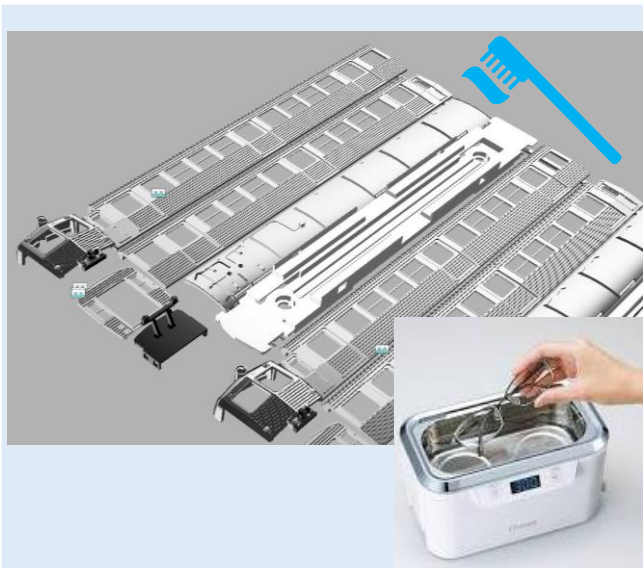
組立説明・手順 (TKK5200系 各製品 共通)

1. 全てのパーツを中性洗剤で洗浄します

パーツ表面の油分を取り除き塗料の定着を良くします。

このとき歯ブラシを使用し、ぬるま湯で丁寧に擦るとよいでしょう。但し強くこすって細かいパーツを破損させないようにご注意ください。

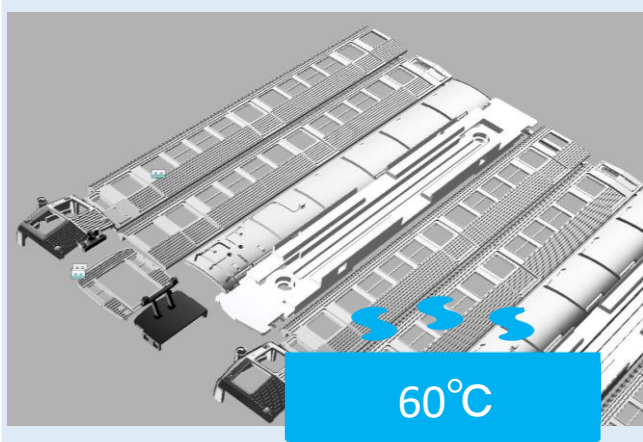
超音波洗浄器を使用すると、入り組んだ場所まで綺麗に洗浄できます。





2. 反りのあるパーツは60℃程度のお湯に浸し、手で矯正します

ボディや屋根板など、細長い板状のパーツは反りがある場合があります。軽微な反りはボディ接着の過程で矯正されますが、強い反りは60℃ほどの熱湯に浸すか、平板にヘアゴム等でプリント品を固定し、ドライヤーで熱することにより事前に矯正することができます。

熱湯を使用する際はやけどに十分ご注意ください。また、高温すぎると変形の原因となりますのでご注意ください。



  やけどに注意

3. 積層痕形目立つ場合は、紙やすりで削ります

ボディの裾紋りや屋根板などの曲面を描く箇所は、3Dプリントの特性上積層痕と呼ばれる凹凸が発生します。

そのような箇所は、#600～#1200程度の紙やすりで削り平滑にしてください。削りすぎてディテールを損なわないようご注意ください。



組立説明・手順 (TKK5200系 各製品 共通)

4. ボディ4面と屋根板を瞬間接着剤で接着します

3Dプリントの亚克力素材はプラモデル用接着剤では付きません。瞬間接着剤またはゴム系接着剤を使用します。

瞬間接着剤は、ゲル状の遅乾タイプで位置をあわせ、その後流し込みタイプで補強するとよいでしょう。

また、瞬間接着剤は白化現象が生じますので、塗装後や透明パーツに使用する場合は、ゴム系接着剤や白化防止タイプの瞬間接着剤を使用するとよいでしょう。



妻板銘板の有無や、Mc車の屋根板配管の向きをよく確認して接着しましょう

5. 全てのパーツにサーフェイサーを吹き付けます

3Dプリントの亚克力素材は半透明なため、サーフェイサーで下塗りして透けを防止します。

サーフェイサーは#1000～#1200のスプレータイプがよいでしょう。

小さな付属パーツ類は特にディテールが埋まりやすいため注意します。

ヘッド・テールライト、種別灯表裏はマスキングゾル等で保護し、塗料が乗らないようにしてください。



溶剤の吸飲に注意

6. ボディを塗装します

塗装方法は様々あるため、お客様のやりやすい方法で塗装してください。

ボディはシルバー、屋根は明るい青みが買ったグレーがよいでしょう。

弊社では、新水性塗料“アクリジョン”を調色しエアブラシで塗装しています。臭いが大幅に軽減され、体や環境にやさしいためおススメです。



! 溶剤の吸飲に注意

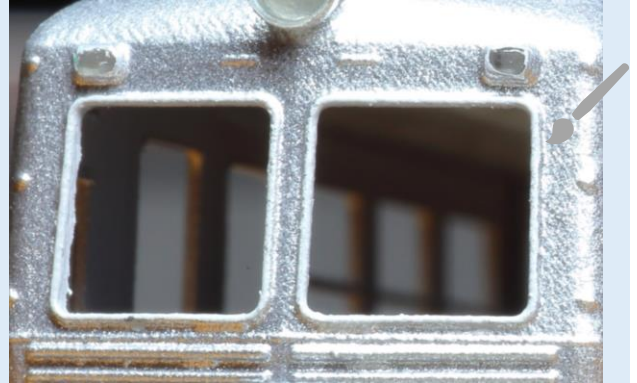
組立説明・手順 (TKK5200系 各製品 共通)

7. ボディやパーツに色を差します

前面Hゴムに灰、ATS受電器と連結器に明灰、標識掛けに銀、テールライトにクリアレッドで色差します。ヘッドライトにはクリアを塗ると透過性が上がり綺麗に仕上がります。

Hゴムに色差しする際は、烏口を使うと便利です。

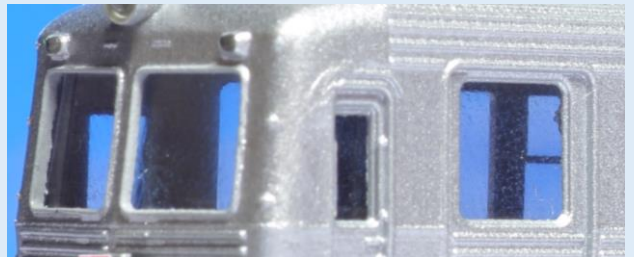
はみ出した箇所は、ボディの下地を傷つけないよう丁寧に爪楊枝で削り取ります。



8. 窓ガラスを接着します

窓サイズに切り出した透明なプラ板や塩ビ板をボディ裏からゴム系接着剤で貼り付けます。

普通の瞬間接着剤は白化現象により透明パーツを白く濁らせてしまうので使用しないようにしましょう。



9. ATS受電器を床板に取り付けます

ATS受電器をMc車床板の先頭側(床板形状がとがっている方)に取り付けます。取付の際、連結器モールドを壊さないようご注意ください。(社外品カプラーを取り付ける際は必要ありません)

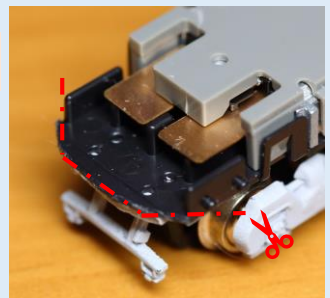
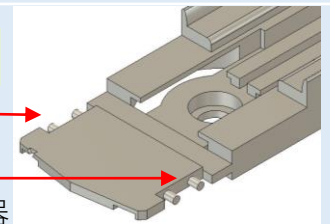
GM製動力ユニット(品番5717)を取付ける際は、ATS受電器の取付穴部と動力ユニットのカプラー受け先端を現物合わせで一部切取り、相互をゴム系接着剤等で張り合わせてください。

トレーラー床板



GM動力化

取付穴部カット



組立説明・手順 (TKK5200系 各製品 共通)

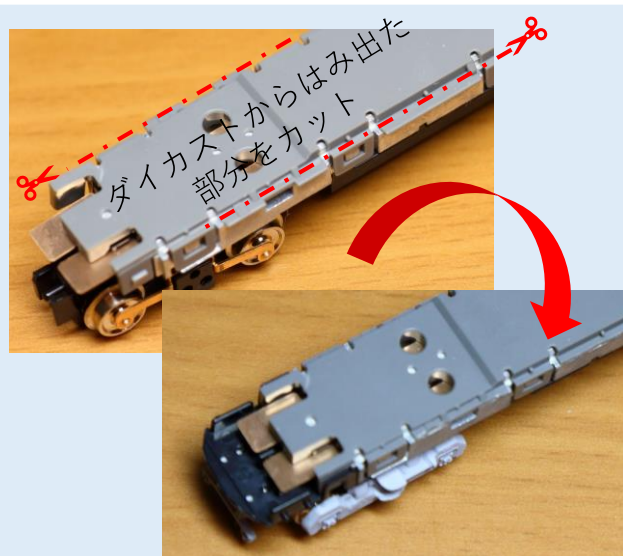
10. GM動力ユニット(品番5717)のモーターカバーを一部切取ります

本製品は裾絞りがあるため内寸が狭くなっており、GM動力ユニットの一部が干渉します。

右図のダイカストからはみ出たモーターカバー部分を切取ることによって動力ユニットが収まります。

ニッパーで大まかに切取った後、カッターややすりで整えてください。

車体と動力ユニットを固定するツメはトレーラー床板と共通ですので、車体側の加工は不要です。



11. 社外品パーツを取り付け完成!

社外品の台車や床下機器、台車、パンタグラフの取付、ナンバーや社章などの表記類を入れて完成です。

ボディ裏側の凸ツメを床板凹みにはめ合わせることで綺麗に取り付けられます。

標識掛けも忘れずに！
瞬間接着剤は白化現象が生じるので、ゴム系接着剤等で取付けます。



完成!